

ウェブページレイアウトが美学に及ぼす影響

1200383 米沢 京一郎 【HEC(人・コンピュータ共進化)研究室】

1 はじめに

近年、Webサイトを介して様々な情報を手軽に入手することが可能となった。インターネット上でビジネスを展開する企業の多くは、数あるWebサイトの中からいかに自社のサービスに興味を惹かせるかに着目している。ユーザが使用するWebページは視覚情報に起因されるため、Webデザインやレイアウトの効果などから得られる美的評価はユーザが取得する情報に大きく影響する。これは、UI・UXデザイナーが必要とされている理由の一つである。

視覚美学の研究では、即時の印象と思考による美的評価の間には高い一貫性が存在する。視覚的印象の中では第一印象が最も重要とされ、Webページに対する視覚的な魅力は約500ms以内の非常に短い時間で即時に形成される[1]。そのため、ユーザの評価をより正確に得るためには、Webページが表示されてから美的印象を形成するまでの間にデザインやレイアウトなどの影響がどれほど与えられるかを知ることが重要である。

本研究では、Webページの美的評価を行い、レイアウト変更が評価に及ぼす影響を調査する。

2 実験内容

2.1 実験参加者

本実験の参加者は色覚が正常な20代の大学生10人(男性8人、女性2人)である。実験を行なう段階で身体的異状が見られないことを確認し、いずれも同意上の被験者として参加している。

2.2 実験手順

実験ではWebページを表示する画面から約30cm離れた位置より画面を注視する。実験が開始されると注視点画像の後にWebページのスクリーンショット画像が表示される。表示が終了すると評価画面が提示されるので美的評価を行う。以上の流れを1試行とし、1回の実験毎に101試行を実施する。表示されるスクリーンショット画像はオリジナルの画像とレイアウトを変更した画像を合わせて使用し、レイアウト変更の影響を検出できるようにする。実験はスクリーンショット画像の表示時間を変更して3度実施する。

2.3 スクリーンショット画像の表示時間

スクリーンショット画像の表示時間には、50ms、500ms、5sの3つの表示時間を使用し、実験ごとに表示時間を統一する。魅力評価には第一印象が重要であるため、500msといった非常に短い時間を用いる。視覚的アピールの評価において、500msと50msの間には相関関係があることが立証されている[2]。

2.4 評価方法

評価方法としてリッカート・スケールを用いる。Googleの品質評価ガイドラインを元に、美的評価を1から9段階で評価できる様に設定する。これは基準値である5つの評価に4つの中間値を加えた値である。

3 レイアウトの変更方法

今回はスクリーンショット画像を4分割してレイアウト変更を行なう。Webページのレイアウト変更は、水平・垂直方向に行う。レイアウト変更ではヘッダーやフッター、文章構成などのWebページの規則を崩さないことを前提にする。画像編集アプリでWebページ内の広告や文章、ピクチャごとのコンテンツに分割してレイアウト変更画像を作成する。図1はレイアウト変更前のWebページのスクリーンショット画像、図2は水平方向にレイアウトを変更した画像の例である。



図1 オリジナル画像

図2 水平方向への変更

4 まとめ

本稿では、Webページのレイアウトが人間の美的評価に及ぼす影響について調査を行う。測定した実験結果の評価値データの特徴を分析する。評価値の差分や美的指標を用いて被験者のデータを比較し、検証する。

参考文献

- [1] Höfela, Lea and Jacobsena, Thomas: “Electro-physiological Indices of Processing Symmetry and Aesthetics: A Result of Judgment Categorization or Judgement Report?”, In Journal of Psychophysiology, 21 (1) pp. 9-21, (2007).
- [2] Gitte Lindgaard., Garry Femandes., Cathy Dudek., J Brown., “Attention web designers: You have 50 milliseconds to make a good first impression.” Behav., Inf. Technol.2, 115-126, (2006).